

株式会社**清水銀行**
決算説明会
2023年3月期

東証プライム：8364

目次

I 清水銀行の概要と静岡県のポテンシャル

清水銀行の概要	2
静岡県のポテンシャル ～主要指標～	3
静岡県のポテンシャル ～インフラと産業～	4
静岡県のポテンシャル ～観光資源～	5
静岡県のポテンシャル ～清水港周辺の発展～	6

II 2023年3月期決算概要

決算概要 ～損益の推移～	7
決算概要 ～貸出金・貸出金利息～	9
決算概要 ～預金・個人預かり資産～	11
決算概要 ～有価証券～	12
決算概要 ～法人役務収益・個人役務収益～	13
決算概要 ～与信関連・自己資本比率～	14
決算概要 ～配当実績・業績予想～	15
第27次中期経営計画の達成状況	16
P B R ・ R O E	17

III 第28次中期経営計画

第28次中期経営計画 ～位置づけ～	18
パーパスの制定	19
第28次中期経営計画 ～概要～	20
第28次中期経営計画 ～基本方針の連関性～	21
第28次中期経営計画 ～ソリューション営業の高度化～	22
第28次中期経営計画 ～人的資本の充実～	28
第28次中期経営計画 ～サステナビリティ経営の実践～	31

Ⅰ 清水銀行の概要と

静岡県のパテンシャル

清水銀行の概要

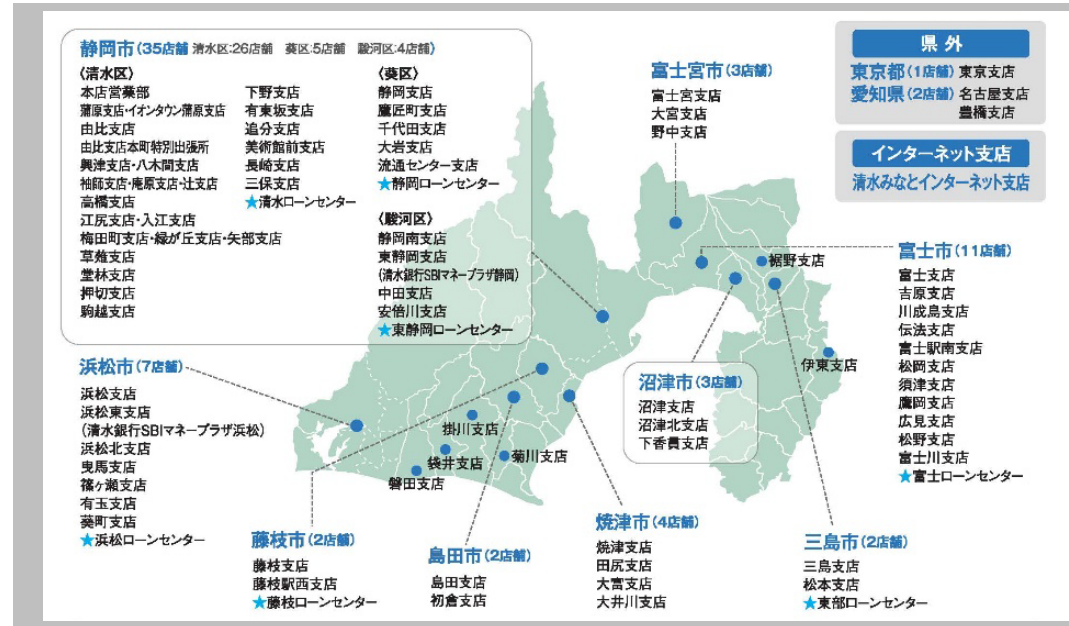
清水銀行の概要

2023年3月31日現在

創立	1928年7月1日
本店所在地	静岡県静岡市清水区富士見町2番1号
総資産	1兆8,765億円
預金残高	1兆5,468億円
貸出金残高	1兆2,511億円
資本金	108億1,626万円
店舗数	本支店・出張所79店舗 (静岡県内76店舗、静岡県外3店舗)
従業員数	892人
連結自己資本比率	8.69% (国内基準)
単体自己資本比率	8.47% (国内基準)

店舗ネットワーク

2023年3月31日現在



経営理念

1. 社会的公共性を重んじ健全経営をすすめる
2. お客様に親しまれ、喜ばれ役にたつ銀行をつくる
3. 人間関係を尊重し働きがいある職場をつくる



本店営業部



天神本部

静岡県のポテンシャル ～主要指標～

基本データ

項目	計数	全国順位	基準年
人口	360万人	10位	2021年
県内総生産(名目)	17兆4,621億円	10位	2019年
1人当りの県民所得	343万円	4位	2019年
製造品出荷額等	17兆1,540億円	3位	2020年
事業所数	159,628事業所	10位	2021年
企業立地件数	49件	4位	2021年
エコアクション21認証・登録事業者数	973件	1位	2022年
医薬品・医療機器生産額	1兆2,050億円	1位	2020年
プラモデルの出荷額	222億円	1位	2019年
ホテル・旅館数	2,760施設	3位	2021年

静岡県の日本一

東部地区の日本一

- 富士山（世界遺産、標高3,776m）
- 韮山反射炉（世界遺産）
- 柿田川（湧水量約110万 t / 日）
- パルプ（輸入量シェア36%）
- 医療機器（生産額シェア15%）
- 温泉利用宿泊施設（施設数シェア15%）
- タカアシガニ（漁獲量9,482kg）

医療機器



中部地区の日本一

- 駿河湾（日本一深い湾）
- 桜えび（漁獲量シェア100%）
- 冷凍まぐろ（上場水揚量シェア87%）
- かつお（漁獲量シェア31%）
- プラモデル（出荷額シェア92%）
- 茶（栽培面積シェア38%）
- まぐろ類缶詰（生産量シェア97%）
- 蓬莱橋（世界一長い木造歩道橋）

プラモデル



西部地区の日本一

- 普通温州みかん（収穫量シェア23%）
- ピアノ（出荷量シェア100%）
- ガーベラ（作付面積シェア31%）
- 二輪自動車・原動機付自転車（輸出額シェア41%）
- 温室メロン（収穫量シェア36%）
- 光電子増倍管（生産量シェア100%）



ピアノ

静岡県のポテンシャル ～インフラと産業～

西部地区

- 製造業・鉱業
(輸送機器、光電子増倍管、ピアノ)
- 農業 (茶、温室メロン、ガーベラ)

東部地区

- 宿泊・飲食業 (温泉、富士山、韮山反射炉)
- 製紙業
- 医薬品・医療機器等製造業

名古屋

長野

山梨

東京

東海道新幹線

三遠南信自動車道

中部横断自動車道

東名高速道路

伊豆縦貫自動車道

新東名高速道路

田子の浦港

清水港

富士山
静岡空港

金谷御前崎
連絡道路

御前崎港

中部地区

- 水産業 (冷凍まぐろ、さくらえび)
- 製造業 (プラモデル)
- 物流業

静岡県のポテンシャル ～観光資源～



**どうする家康 浜松
大河ドラマ館（浜松市）**

家康公が築き、天下統一への足掛かりとなった浜松城東側にグランドオープン
開館期間：令和5年3月18日（土）～令和6年1月14日（日）



静岡浅間神社（静岡市）

家康公が元服式を行ったといわれる神社。現在の社殿群は徳川幕府が総力をあげ再建したものであり、国の重要文化財である。



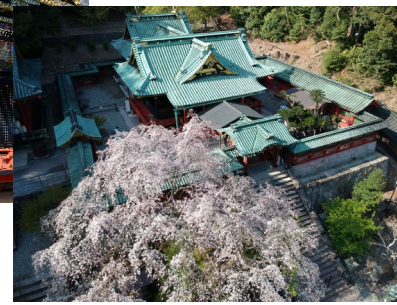
**どうする家康 静岡
大河ドラマ館（静岡市）**

家康公が元服式を行ったとされる静岡浅間神社内にオープン
開館期間：令和5年1月27日（金）～令和6年1月28日（日）

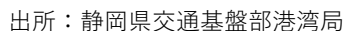


久能山東照宮（静岡市）

家康公を祀る霊廟として元和3年に全国で最初に創建された東照宮である。御社殿は静岡県内唯一の国宝建造物に指定されている。



清水港カーボンニュートラルポート（CNP）形成イメージ図（2050年）



Ⅱ 2023年3月期決算概要

決算概要 ～損益の推移①～

損益の推移

- 経常収益は前期比764百万円増加、経常利益は同2,269百万円減少、当期純利益は同973百万円減少

(百万円)

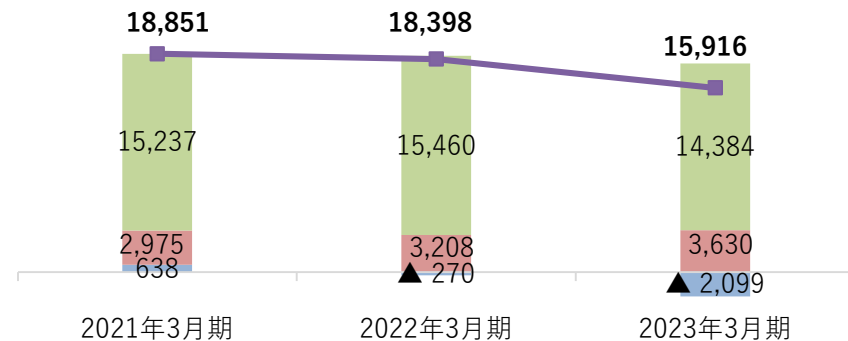
	2022年3月期	2023年3月期	前期比
経常収益	21,229	21,994	764
業務粗利益	18,398	15,916	▲ 2,482
(コア業務粗利益)	18,573	17,007	▲ 1,565
資金利益	15,460	14,384	▲ 1,076
役務取引等利益	3,208	3,630	422
その他業務利益	▲ 270	▲ 2,099	▲ 1,828
国債等債券損益	▲ 174	▲ 1,090	▲ 916
経費 (除く臨時処理分)	14,453	14,517	63
一般貸倒引当金繰入額	▲ 16	▲ 346	▲ 329
実質業務純益 (※ 1)	3,945	1,399	▲ 2,545
コア業務純益 (※ 2)	4,119	2,489	▲ 1,629
コア業務純益 (除く投資信託解約損益)	4,103	2,414	▲ 1,688
業務純益	3,962	1,745	▲ 2,216
臨時損益	▲ 516	▲ 569	▲ 52
株式等関係損益	▲ 16	191	207
経常利益	3,445	1,175	▲ 2,269
当期純利益	2,239	1,265	▲ 973

- (※ 1) 実質業務純益 = 業務純益 + 一般貸倒引当金繰入額
 (※ 2) コア業務純益 = 業務純益 - 国債等債券損益 + 一般貸倒引当金繰入額

業務粗利益

資金利益 役務取引等利益 その他業務利益 業務粗利益

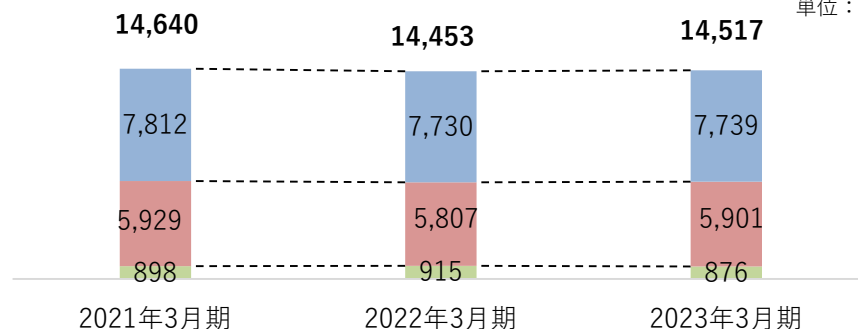
単位：百万円



経費

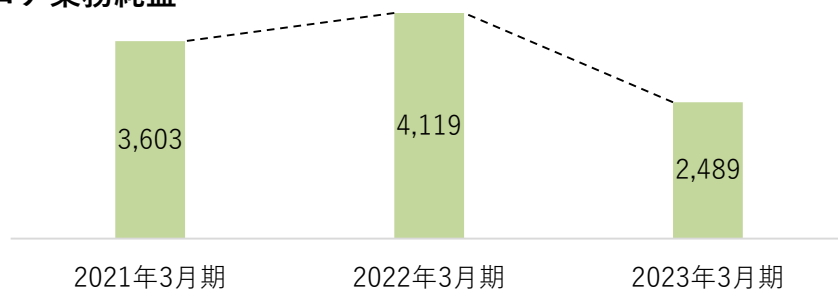
人件費 物件費 税金

単位：百万円



コア業務純益

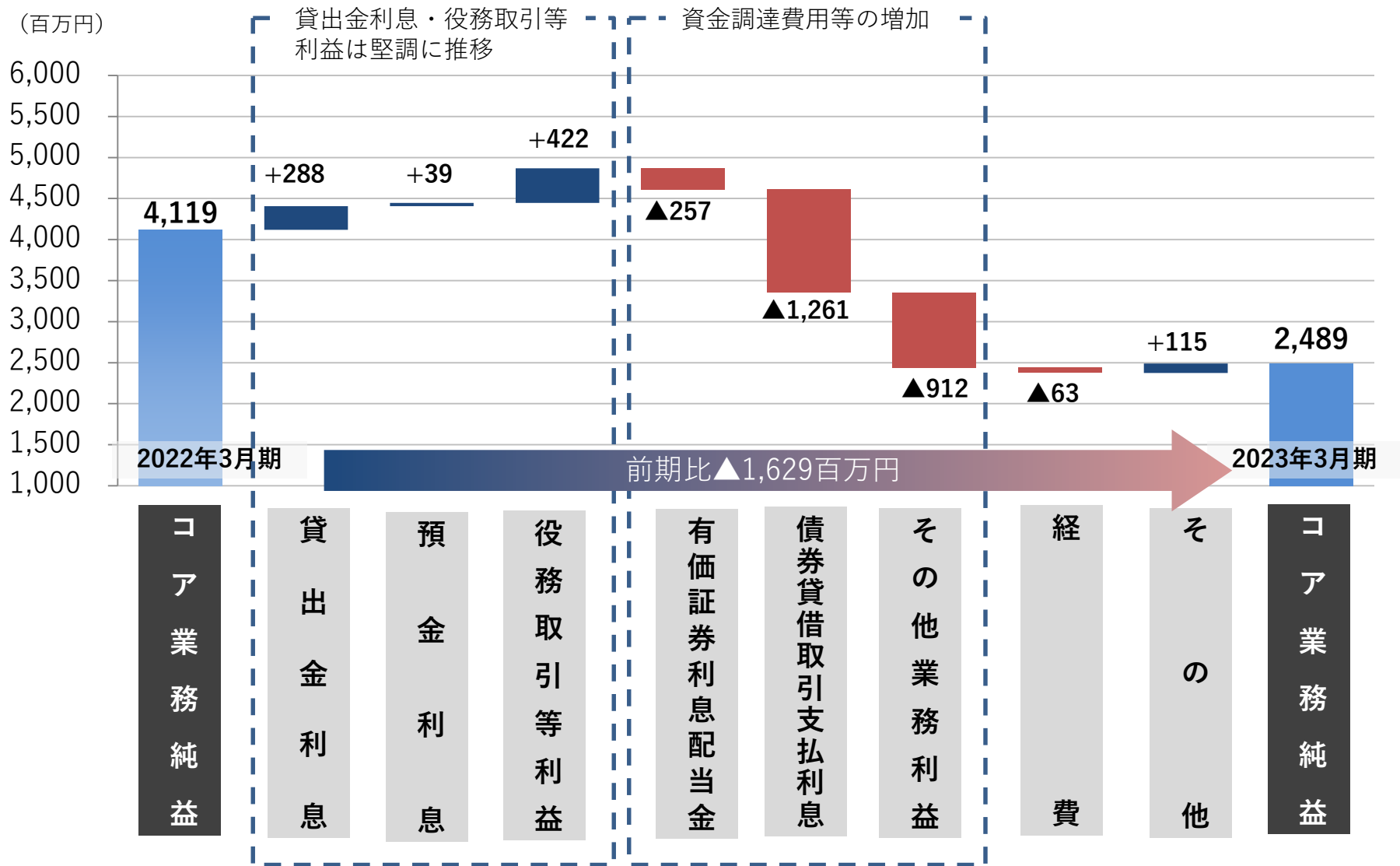
単位：百万円



決算概要 ～損益の推移②～

コア業務純益の増減要因（前期比較）

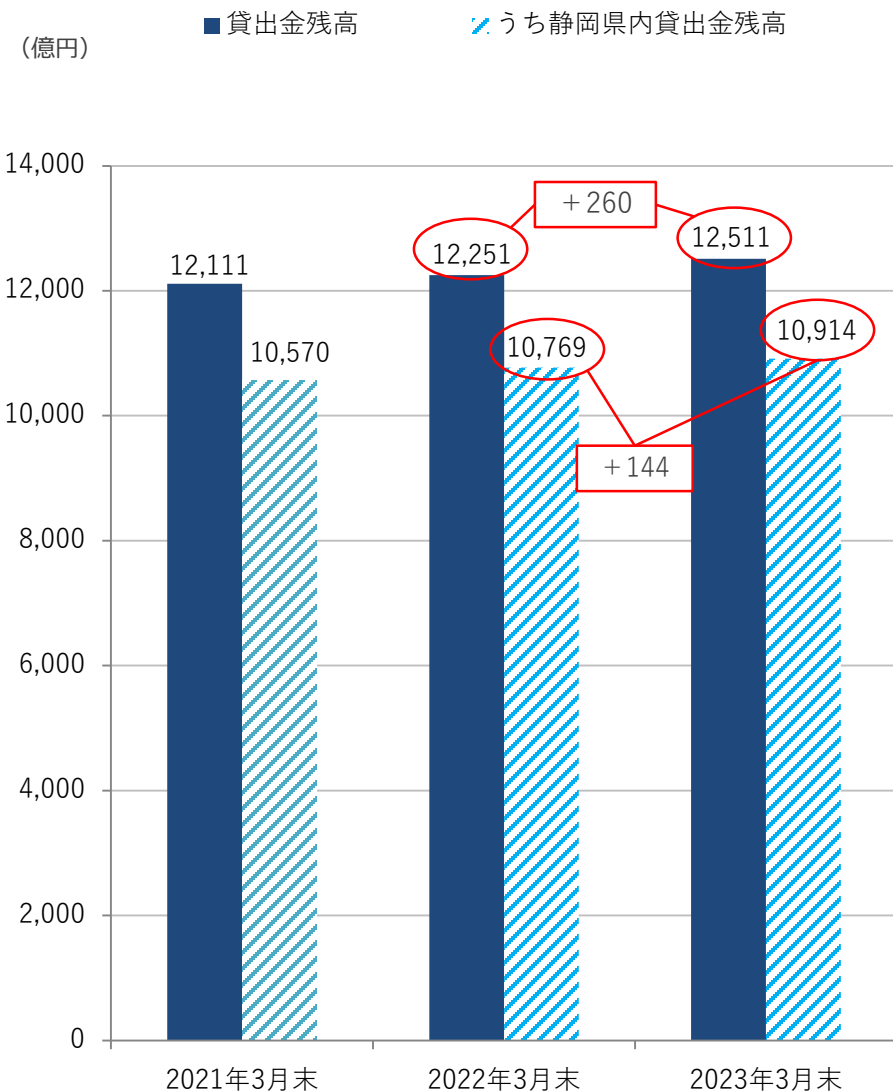
- 貸出金利息や役務取引等利益などは堅調に推移したものの、資金調達費用等の増加により、コア業務純益は前期比▲1,629百万円



決算概要 ～貸出金・貸出金利息①～

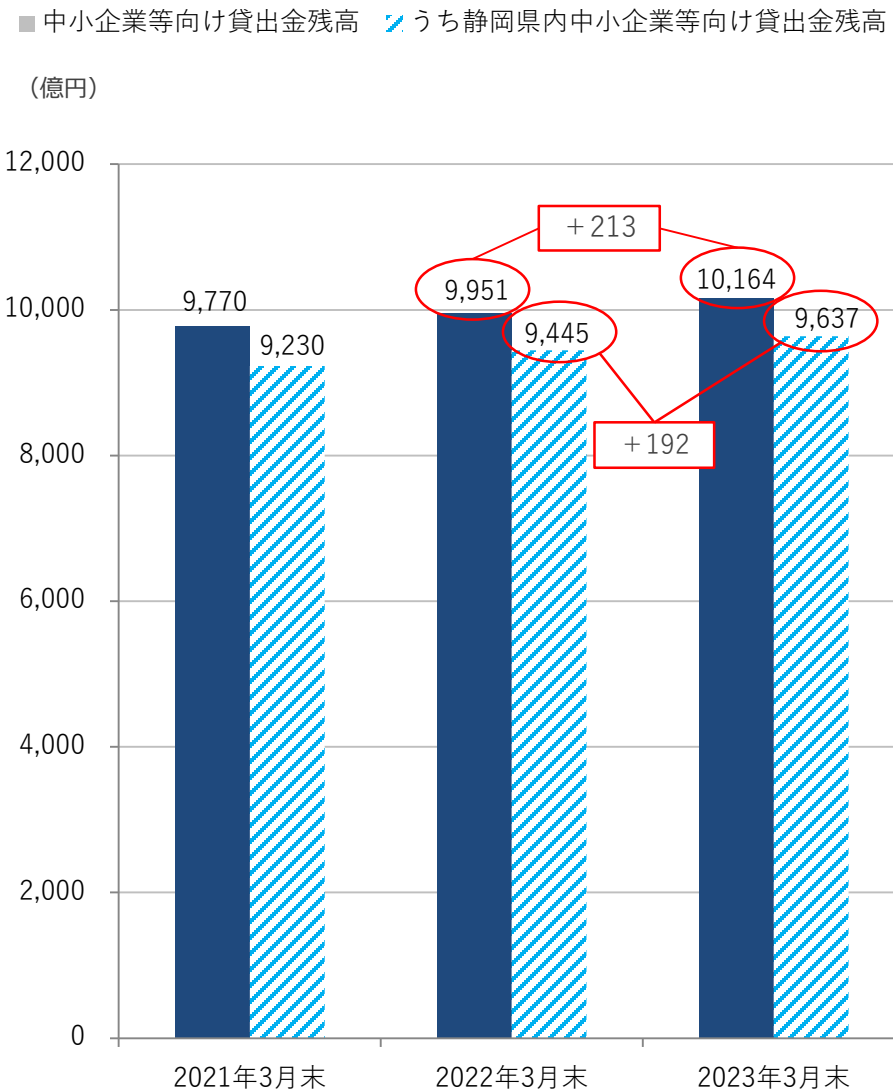
貸出金残高（末残）

- 貸出金残高は、前期比260億円増加
- 静岡県内貸出金残高は、前期比144億円増加



中小企業等向け貸出金残高（末残）

- 中小企業等向け貸出金残高は、前期比213億円増加
- 静岡県内中小企業等向け貸出金残高は、前期比192億円増加



決算概要 ～貸出金・貸出金利息②～

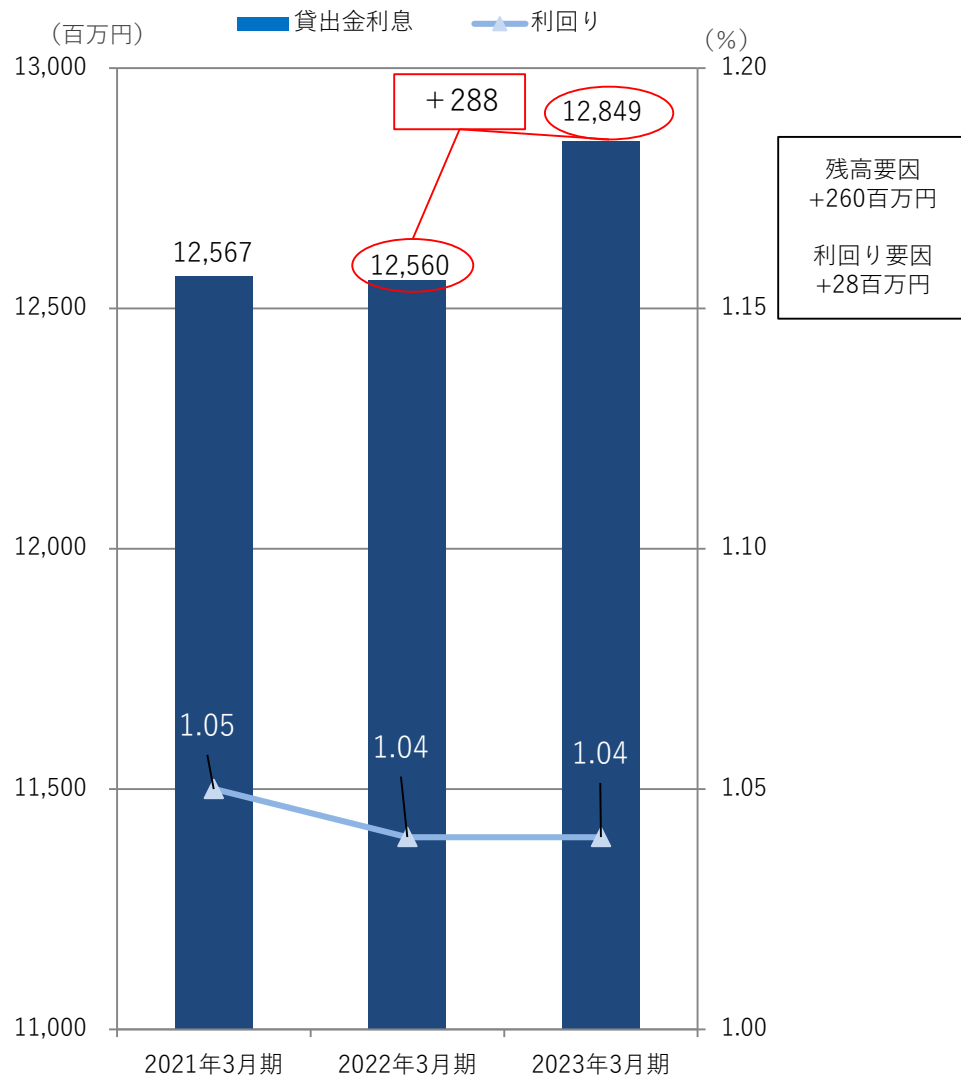
消費者ローン残高（末残）

- 消費者ローン残高は、前期比42億円増加
- 住宅ローン残高は、前期比76億円増加



貸出金利息・貸出金利回り

- 貸出金利息は、前期比288百万円増加

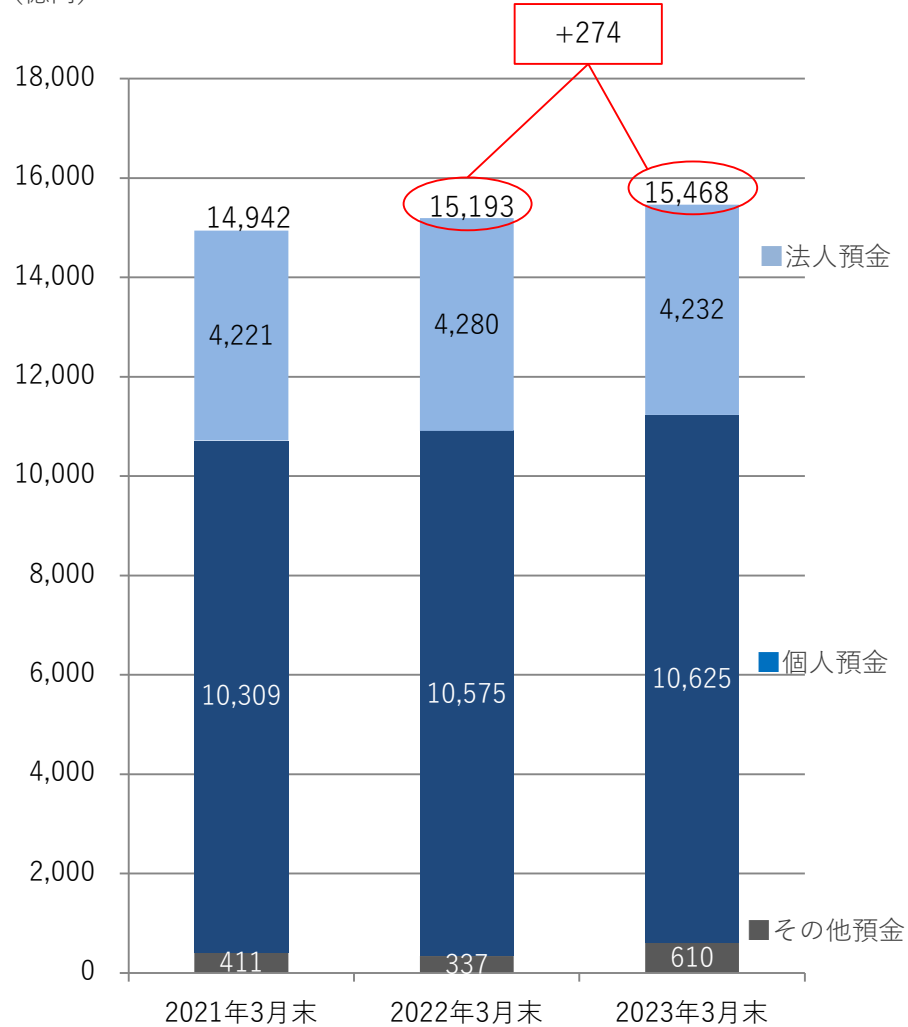


決算概要 ～預金・個人預かり資産～

預金残高（末残）

- 預金残高は、前期比274億円増加

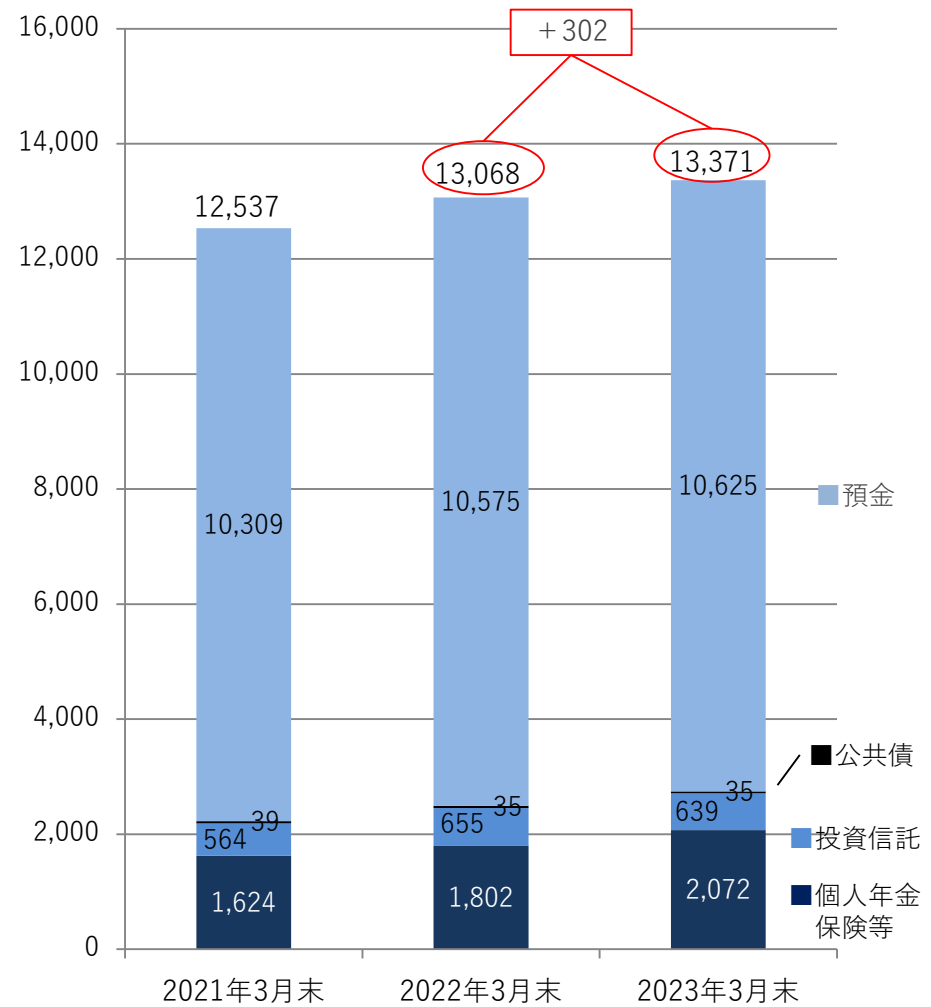
（億円）



個人預かり資産残高（末残）

- 個人預かり資産残高は、預金・個人年金保険等が増加し、前期比302億円増加

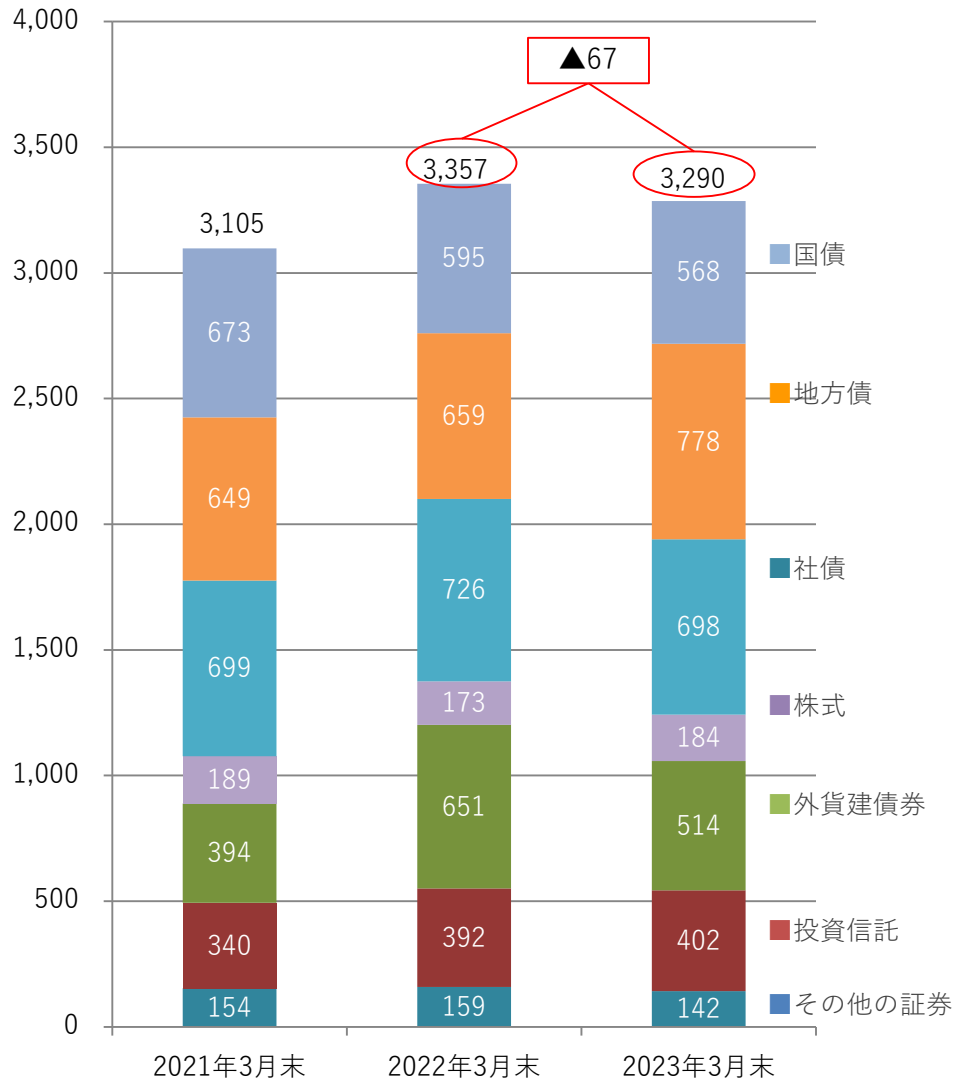
（億円）



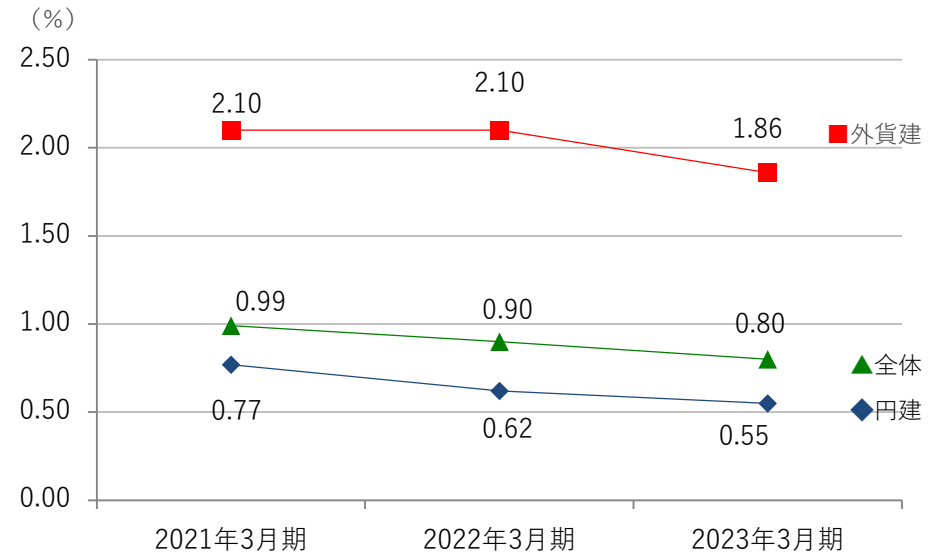
決算概要 ～有価証券～

有価証券残高（末残）

- 有価証券残高は、外貨建債券等の減少により前期比67億円減少（億円）



有価証券利回り



有価証券関係損益・デュレーション

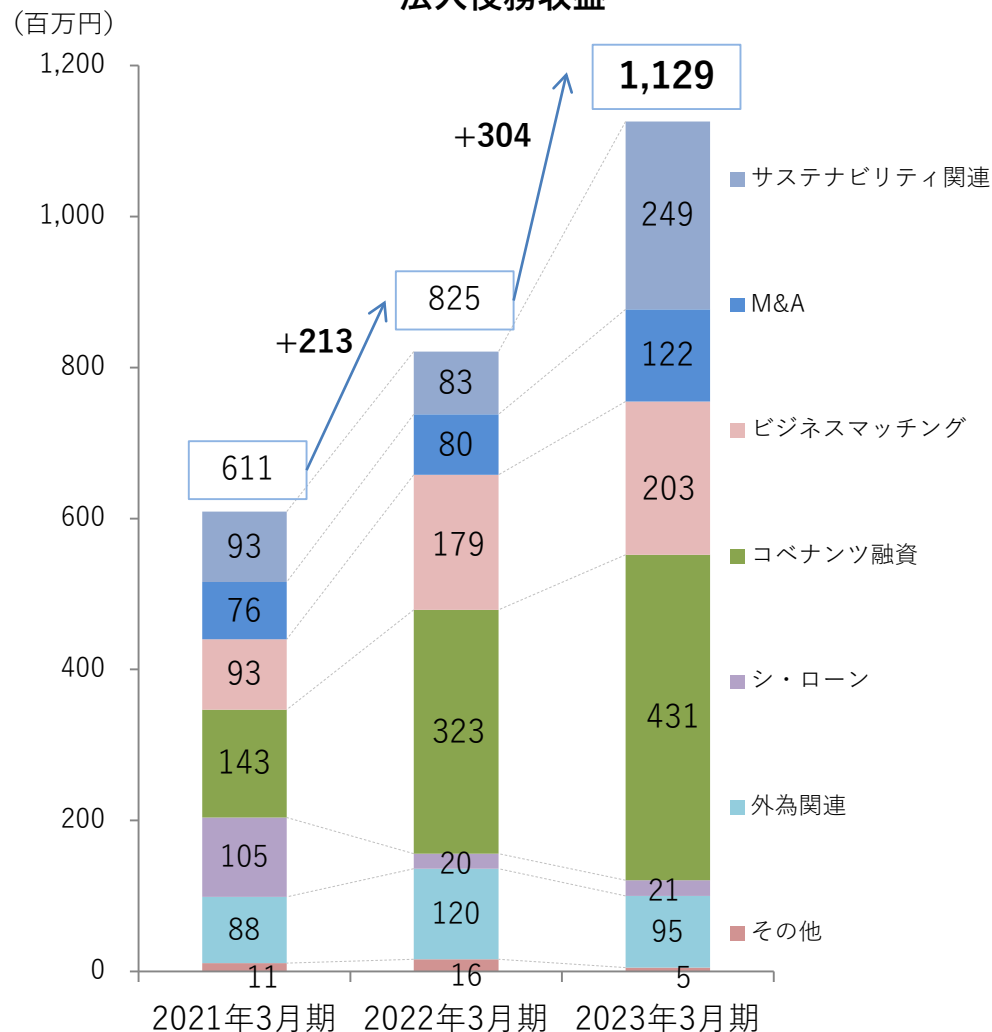
	(億円)			
	2021年 3月末	2022年 3月末	2023年 3月末	前年末比
有価証券評価損益	34	▲59	▲135	▲76
国債等債券損益	6	▲1	▲10	▲9
うち国債等債券売却益 (+)	11	6	1	▲5
うち国債等債券売却損 (▲)	3	8	12	4
株式等損益	4	▲0	1	2
うち株式等売却益 (+)	5	0	5	4
うち株式等売却損 (▲)	-	0	2	2
うち株式等償却 (▲)	0	0	1	0
デュレーション (円建)	6.60年	6.75年	6.35年	▲0.40年
デュレーション (外貨建)	6.04年	5.02年	4.44年	▲0.58年

決算概要 ～法人役務収益・個人役務収益～

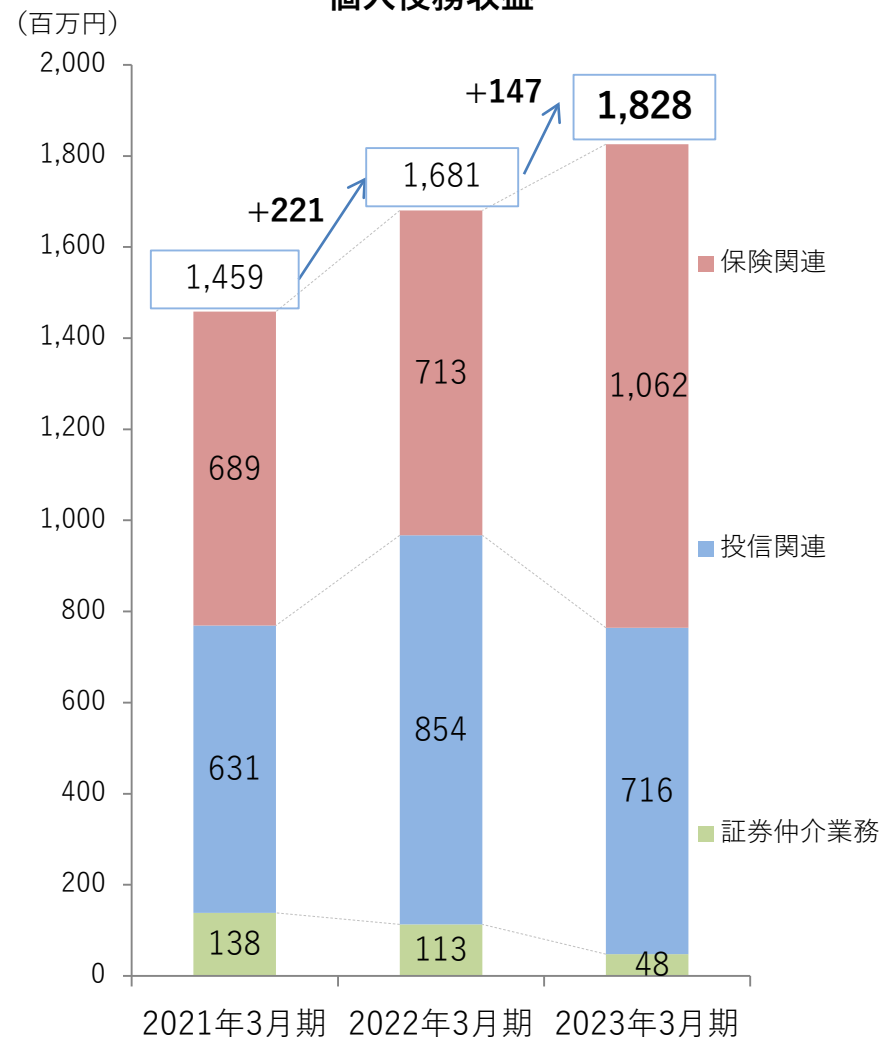
法人役務収益・個人役務収益

- 法人役務収益は、M&A、ビジネスマッチング、サステナビリティ関連、融資関連手数料等の増加により前期比304百万円増加
- 個人役務収益は、保険窓販が堅調に推移した結果、前期比147百万円増加

法人役務収益



個人役務収益



決算概要 ～与信関連・自己資本比率～

- 与信関係費用は、前期比91百万円増加
- 金融再生法開示債権は、前期比5億円減少の151億円、総与信に占める比率は、前期比0.06ポイント低下の1.18%

与信関係費用

(百万円)

	2021年 3月期	2022年 3月期	2023年 3月期	前期比
一般貸倒引当金繰入額	271	▲ 16	▲ 346	▲ 329
個別貸倒引当金繰入額	1,058	557	1,086	528
その他不良債権処理額	83	164	56	▲ 108
与信関係費用	1,413	705	796	91

金融再生法開示債権

(億円、%)

	2021年 3月末	2022年 3月末	2023年 3月末	前年末比
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	74	55	74	18
危険債権	87	85	68	▲ 17
要管理債権	15	15	9	▲ 5
小計 ①	178	156	151	▲ 5
正常債権	12,208	12,410	12,670	259
総与信 ②	12,387	12,567	12,822	254
開示債権の総与信に占める比率 ①／②	1.43	1.24	1.18	▲ 0.06

- 自己資本比率（連結・単体）は、リスク・アセットの増加により低下

自己資本比率（連結）

(億円、%)

	2021年 3月末	2022年 3月末	2023年 3月末	前年末比
自己資本比率	9.03	8.95	8.69	▲ 0.26
自己資本の額	835	851	850	▲ 1
リスク・アセット	9,255	9,510	9,772	261

自己資本比率（単体）

(億円、%)

	2021年 3月末	2022年 3月末	2023年 3月末	前年末比
自己資本比率	8.79	8.71	8.47	▲ 0.24
自己資本の額	803	817	815	▲ 1
リスク・アセット	9,132	9,386	9,629	243

決算概要 ～配当実績・業績予想～

- 経営体質の強化と経営環境変化への備えのため、内部留保を確保するとともに、安定的な配当を継続することを目指している
- 期末配当は30円、年間配当は60円を予定

1株当たり年間配当

(円)

	2022年 3月期	2023年 3月期	前期比
1株当たり年間配当	60	60	0

- 2024年3月期業績予想については、単体で経常利益18億円、当期純利益12億円を見込む

単体業績予想

(億円)

	2023年 3月期 実績	2024年 3月期 予想	通期 増減率
経常収益	219	233	5.9%
経常利益	11	18	53.1%
当期純利益	12	12	▲5.2%

配当総額・配当性向

(億円)

	2022年 3月期	2023年 3月期	前期比
親会社株主に帰属する当期純利益	25	14	▲42.8%
配当総額	6.9	6.9	▲0
配当性向（連結）	26.9%	47.0%	20.0%

連結業績予想

(億円)

	2023年 3月期 実績	2024年 3月期 予想	通期 増減率
経常収益	284	296	4.2%
経常利益	15	19	19.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	14	12	▲18.6%

第27次中期経営計画の達成状況

ZENSHIN

～架け橋を築く～

名 称

計画期間

令和2年4月1日 ～ 令和5年3月31日（3年間）

基本方針

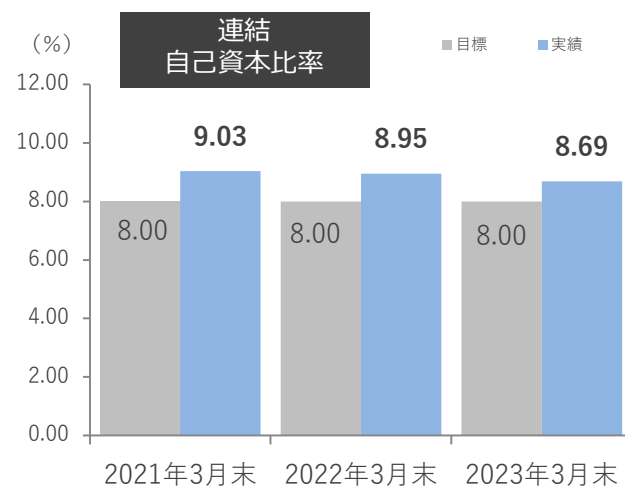
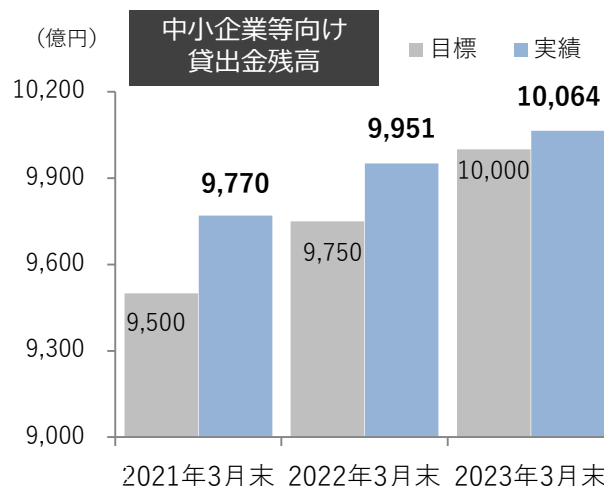
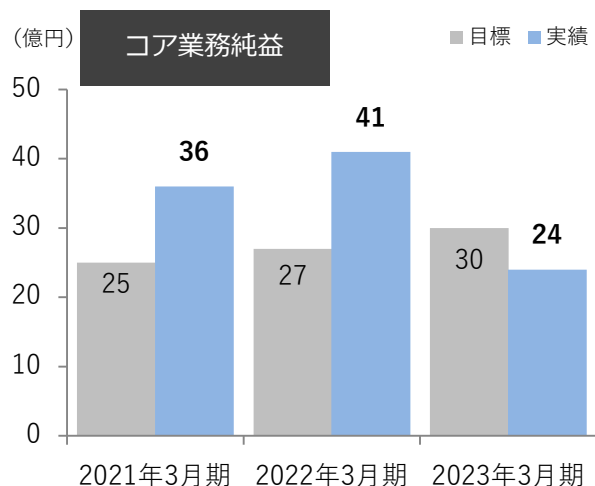
お客さま本位の追求

人財活力の最大化

経営基盤の強化

計数目標

- ① コア業務純益 **30億円** 以上
- ② 中小企業等向け貸出金残高 **1兆円** 以上
- ③ 連結自己資本比率 **8%** 以上



現状分析と評価

- 清水銀行は地方銀行で下位の純資産規模
- P B R 及び R O E は地方銀行で下位水準

(時価総額／純資産)

P B R

0.22倍

株価純資産倍率

=

(当期純利益／純資産)

R O E

1.9%

自己資本利益率

×

(時価総額／当期純利益)

P E R

11.39倍

株価収益率

企業価値・収益力向上

第28次中期経営計画

資本効率向上

- ・ 政策保有株の縮減
- ・ 自己株式の取得

第28次中期経営計画の達成により、収益力・資本効率・企業価値向上を目指す。

Ⅲ 第28次中期経営計画

第28次中期経営計画 ～位置づけ～

第28次中期経営計画は、創立100周年に向けた2ndフェーズとして、1stフェーズ（第27次中期経営計画）で底上げを図った収益基盤の維持・拡大を図る重要な3年間として位置づけた

経営理念

パーパス
「地域を愛し、お客さまの未来をともに考え、共創します」

第27次中期経営計画 1stフェーズ

第28次中期経営計画 2ndフェーズ

第29次中期経営計画 3rdフェーズ

2020年度
第146期

2021年度
第147期

2022年度
第148期

2023年度
第149期

2024年度
第150期

2025年度
第151期

2026年度
第152期

2027年度
第153期

2028年度
第154期

創立100周年

2028年7月
創立100周年に向けたありたい姿

MISSION(企業が果たすべき責務)

「組織を流れる改革精神と、組織を支える全員の力を結集し、地域の発展と、当行の永続性を確保する。」

VALUE(組織共通の価値観)

「あなたは、私のことを見ていてくれる、わかってくれる、そして、願いを叶えてくれる。清水銀行は、こんな銀行でありたい。」

VISION (将来のありたい姿)

存在意義の発揮

ZENSHIN

～架け橋を築く～

<基本方針>

お客さま本位の追求

人財活力の最大化

経営基盤の強化

進化×深化×真価

SHINKA

～絆をつむぐ～

<基本方針>

ソリューション営業の高度化

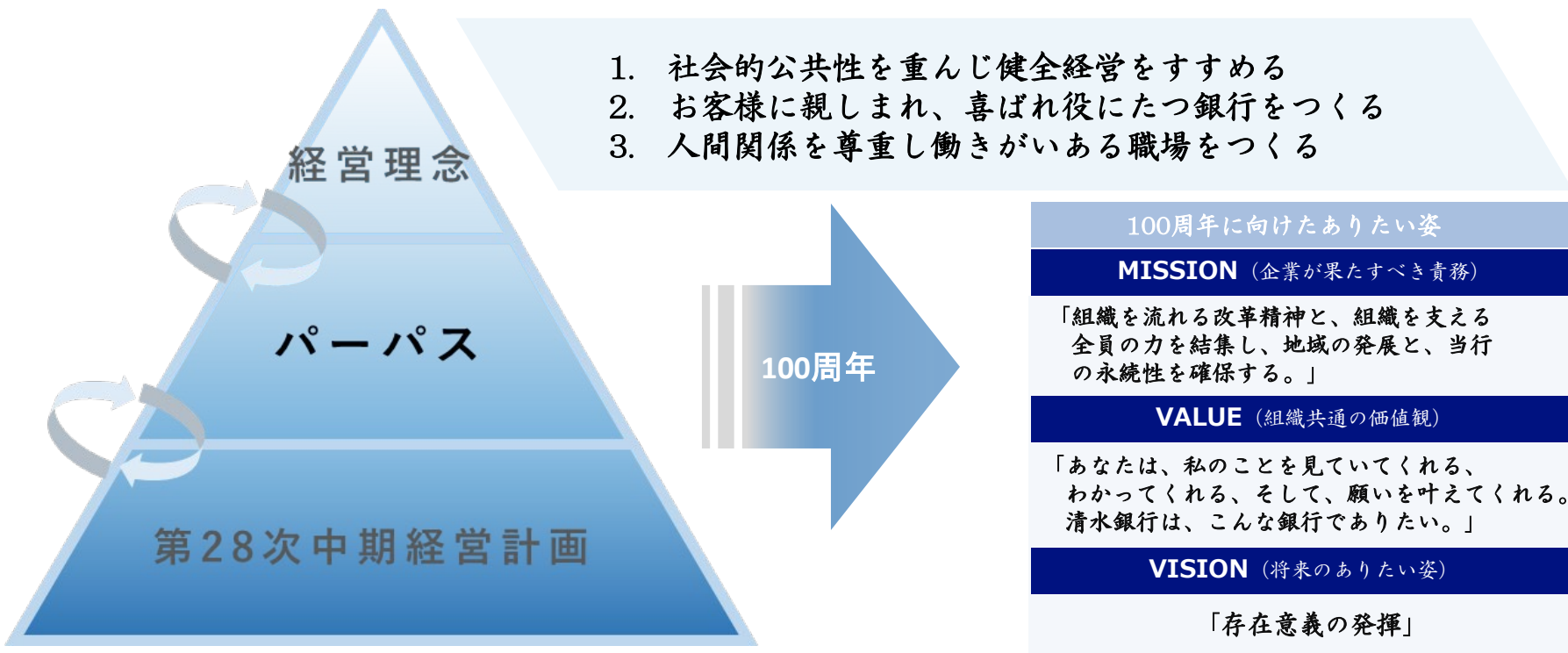
人的資本の充実

サステナビリティ経営の実践

地域を愛し、お客さまの未来をともに考え、共創します

<コンセプト>

静岡県を主要営業基盤とする清水銀行が、お客さまの過去から現在までをよく知ったうえで、一緒になってお客さまのサステナブルな未来を考え抜き、地域・お客さまの未来をともに創っていくという思いを込めています。



<制定理由・目的>

社会全体がカーボンニュートラルを目指すなかで、企業利益の追求のみならず、人や環境に与える影響を考慮した活動や戦略が求められ、サステナビリティへの意識が高まっています。また、コロナ禍により、社会・生活様式や経済環境が様変わりし、外部環境が大きく変化しています。このような変化の激しい時代だからこそ、当行の社会における存在意義を改めて見つめなおし、これからもお客さまと共存共栄し、持続的な発展を遂げるため、普遍的な経営理念と経営計画を結ぶ役割として、パーパス（当行が地域社会に存在している「意義」、未来に向けての「志」）を制定しました。パーパスを通して、従業員一人ひとりのやりがいや、働きがいにつなげるとともに、「考え抜く力」、「苦難に耐え抜く力」、「挑戦し続ける力」の原動力にしていきます。

名 称

SHINKA

～ 絆をつむぐ～

計画期間

2023年4月1日 ～ 2026年3月31日（3年間）

基本方針

ソリューション営業の高度化

人的資本の充実

サステナビリティ経営の実践

計数目標
(最終年度)

- | | |
|-----------------|--------|
| ①コア業務純益 | 40億円以上 |
| ②当期純利益 | 25億円以上 |
| ③県内中小企業等向け貸出金残高 | 1兆円以上 |
| ④連結自己資本比率 | 8%以上 |

タイトル
コンセプト

「SHINKA」には、「進化」「深化」「真価」の3つの意味を持たせ、第27次中期経営計画で「ZENSHIN」したさまざまな施策をさらに進め、深めるとともに、第28次中期経営計画での新たな施策を推し進めることで、真の価値を発揮・提供していくという思いを込めています。

サブタイトル
コンセプト

「絆をつむぐ」には、第27次中期経営計画から第28次中期経営計画へと築いた架け橋をさらに強く太くするとともに、第27次中期経営計画の中に築いたステークホルダー（地域、お客さま、従業員、株主等）との絆をさらにきめ細やかにつむぎ深めていくという2つの意味を込めています。

第28次中期経営計画 ～基本方針の連関性～

人的資本（従業員）
への投資を加速

<経営理念の具現化>

人間関係を尊重し働きがいある職場をつくる

人的資本の充実

<あるべき姿>

全従業員を資本と捉え、一人ひとりの成長と働きがいを組織的にサポートすることで、組織全体の「力」が向上。

従業員との絆をつむぐ

清水銀行のパーパス

地域を愛し、お客さまの未来をともに考え、共創します

お客さまとの絆をつむぐ

<経営理念の具現化>

お客様に親しまれ、喜ばれ役にたつ銀行をつくる

ソリューション営業の高度化

<あるべき姿>

お客さまのことをよく知ったうえで、課題やビジョンを共有し、お客さまのニーズに適したソリューションを提供。

地域社会・株主との絆をつむぐ

<経営理念の具現化>

社会的公共性を重んじ健全経営をすすめる

サステナビリティ経営の実践

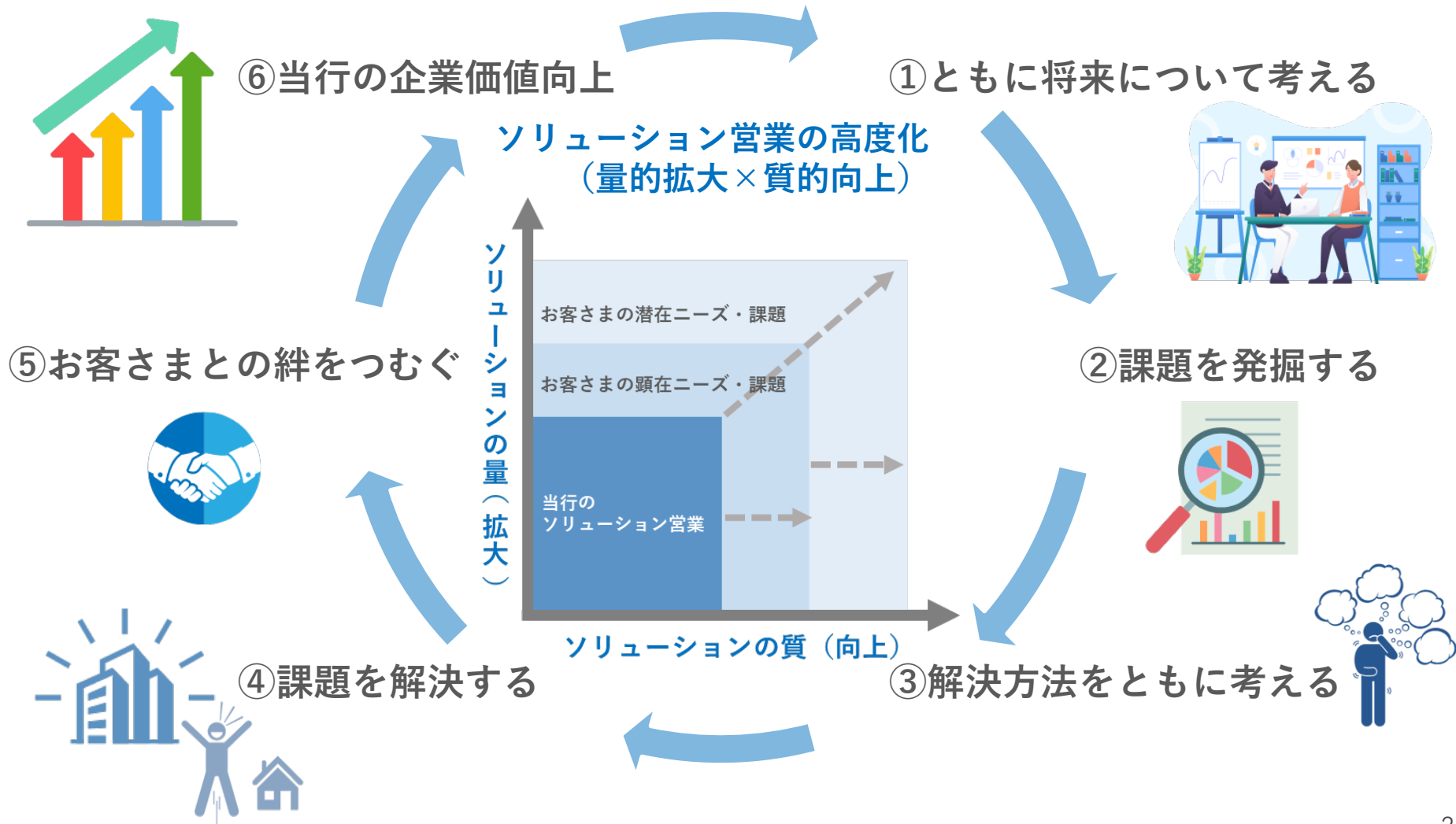
<あるべき姿>

効率性の高い業務運営と安定した経営基盤を維持し、地域の環境・社会・経済の持続的な発展に貢献。

第28次中期経営計画 ～ソリューション営業の高度化①～

ソリューション営業の高度化とは

お客さまの過去から現在までをよく知ったうえで、多様化、高度化するお客さまの顕在化しているニーズ・課題のみならず、潜在しているニーズ・課題にも対応するべく、第27次中期経営計画期間中に量的拡大を図ってきたソリューション営業を「量」的にもさらに拡大し、「質」的にも向上させていくこと。



第28次中期経営計画 ～ソリューション営業の高度化②～

法人向けソリューション営業の強化

- お客さまとの対話を法人営業戦略の中心に据え、多様化・高度化するニーズに対して機動的にソリューションメニューを提供
当行の収益機会を創出しトップラインの増強につなげている

法人のお客さま

創業期

成長期

成熟期

変革期



対話型事業性評価シート （作成先：2,265社→4,170社に増加）



営業店

ソリューション営業部

本業支援
メニュー

創業・開業

ビジネスマッチング

サステナビリティ

公的制度活用

ICT・デジタル化

経営改善

海外展開・外為

人材紹介

事業承継・M&A

本業支援手数料
前期比+81百万円

金融支援
メニュー

しみず創業支援資金

コベナンツ付融資

シンジケートローン

動産・債権譲渡担保融資
(ABL)

しみずコミットメント
タームローン

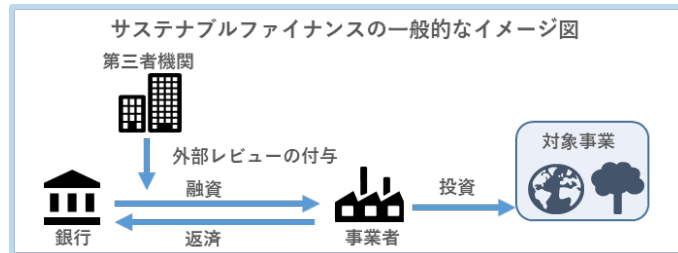
サステナブル
ファイナンス

融資関連手数料
前期比+222百万円

ファイナンス業務の深化

サステナブルファイナンスの深化

サステナブルファイナンスのさらなる浸透



2021年度から2030年度までのサステナブル投融資目標3,000億円

3年間の目標

サステナブル投融資金額 950億円 (3年累計)

ファイナンスの高度化

ストラクチャードファイナンス※1(LBO※2、PFI※3等)の導入検討
シンジケートローンのアレンジ業務の強化



個人向けローン商品の拡充

サステナブル住宅ローン



リバースモーゲージ リースバックの導入検討



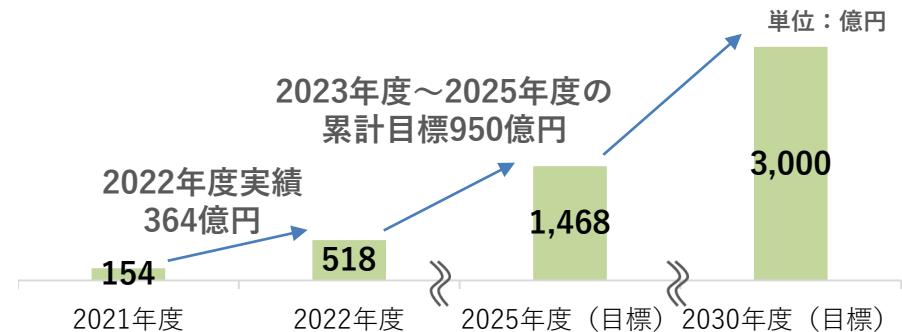
しみずSDGs取組支援サービス

2022年度実績：302件（累計実績：322件）

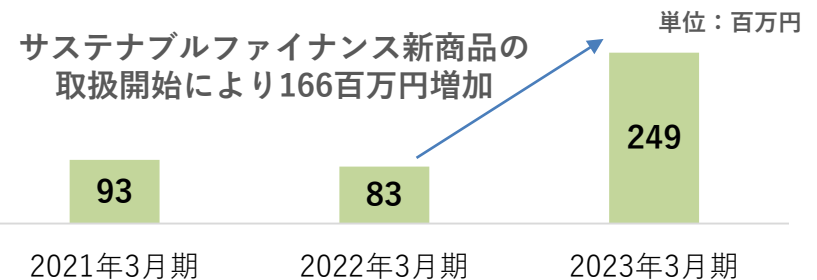
しみずポジティブ・インパクト・ファイナンス

2022年度実績：41件、56億円

2030年度までのサステナブル投融資目標



サステナビリティ関連収益



※1 ストラクチャードファイナンス：仕組み金融（企業の事業活動の特定部分に着目し、取引上の仕組みを工夫することで組成される金融商品）

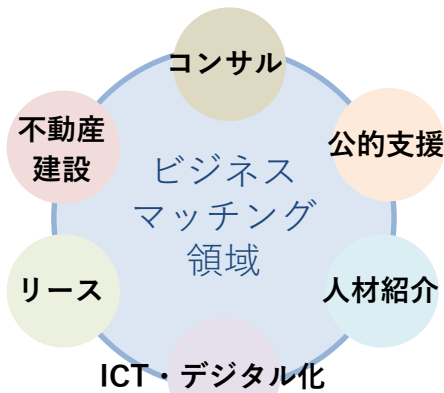
※2 LBO：レバレッジド・バイアウト（M&A対象会社の信用力に基づいた買収資金の調達）

※3 PFI：プライベート・ファイナンス・イニシアティブ（公共施設等の建設・維持・運営を民間の資金・経営能力等を活用して行う手法）

第28次中期経営計画 ～ソリューション営業の高度化④～

ソリューションの『量的拡大』と『質的向上』

ソリューションメニューおよび
外部連携先の拡充



ビジネスマッチング業務
の強化・拡充

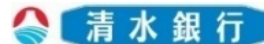
外部連携先をさらに拡充
させ、お客さまのニーズ
への対応力を強化

多様化するニーズに応える
ソリューション提供体制の強化

外部機関



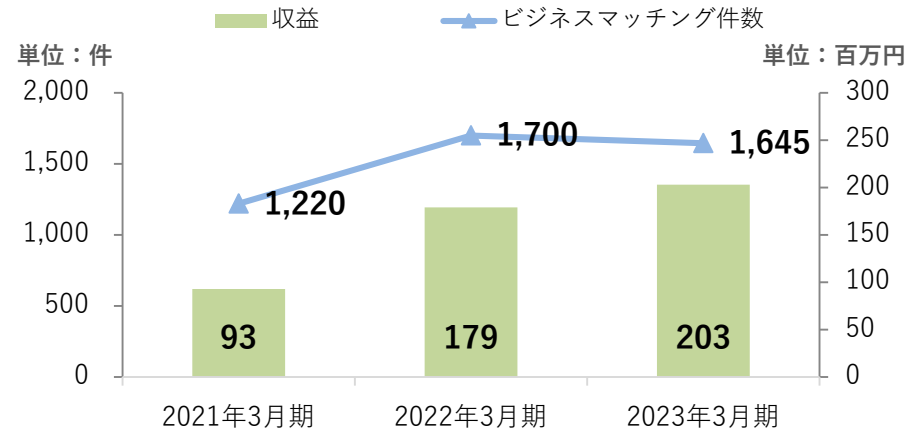
静岡県事業承継・引継ぎ支援センター



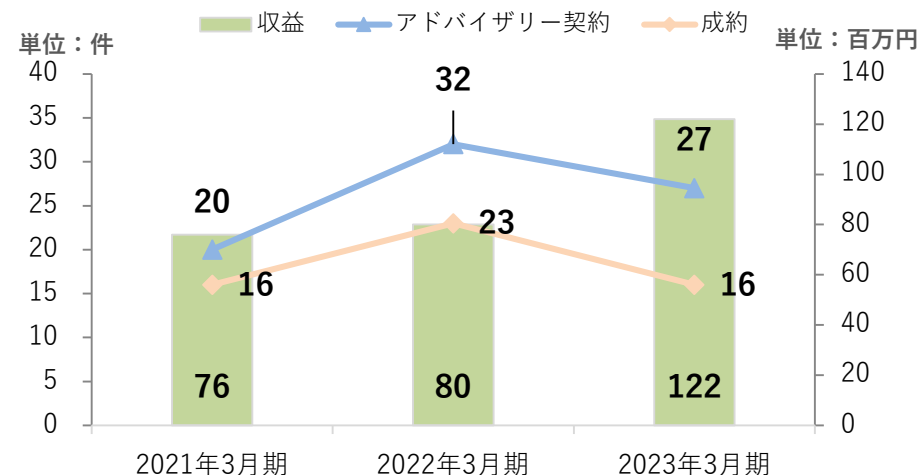
ソリューション営業部
の専門領域拡充

M&Aコンサルティング会社への出向等を通じて
新たな気づきや専門知識・ノウハウを当行に吸収

ビジネスマッチング



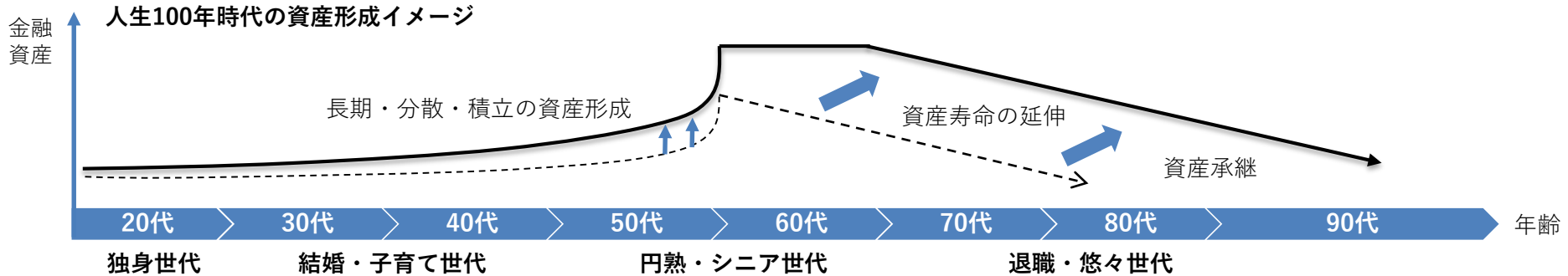
事業承継・M&A



第28次中期経営計画 ～ソリューション営業の高度化⑤～

個人向けソリューション営業の強化

- お客様のライフステージに合わせた、最適な商品・チャネルを用意



当行支援メニュー

	コソコソ資産形成	もしもの備え	まとまった資金の運用	将来への備え	終活の支援
資産運用	☐ 積立投信 ☐ NISA・つみたてNISA ☐ iDeCo	☐ 傷害保険 ☐ 損害保険 ☐ 医療保険	☐ 退職金運用 ☐ 投資信託	☐ 年金保険 ☐ 終身保険	☐ 資産承継支援 ☐ 遺言信託 ☐ 遺言代用信託 ☐ 遺産整理 ☐ 相続相談
	ネット証券と対面サービスの融合 ☐ 証券仲介業務（SBIマネープラザ）				

	出費に備える	安心して住宅を構える	資産の形成
消費者ローン	☐ オートローン ☐ 教育ローン ☐ カードローン ☐ フリーローン	☐ 住宅ローン ☐ 住宅諸費用ローン	☐ アパートローン

チャネル	対面	☐ ローンセンター ☐ 清水銀行SBIマネープラザ ☐ 店舗
	非対面	☐ インターネット支店 ☐ 清水銀行アプリ ☐ Web完結型商品

お客さま本位の業務運営の実践

お客さまの最善の利益を追求（長期・積立・分散）

重要情報シートの活用



個人コンサルシートの導入



お客さまニーズに応じた商品ラインナップの整理・拡充

非対面チャネルのサービス機能強化・拡充

通帳アプリ・IB機能強化



多様な銀行利用者のニーズに応じた金融サービスの提供

高齢者等向けサービス拡充

後見制度支援サービス拡充



お客さまの金融リテラシー向上に資する取り組み実施

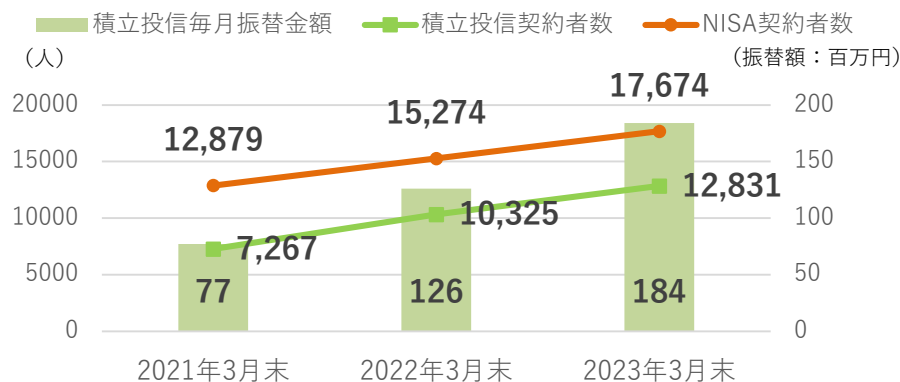
職域セミナー、ウェビナーの実施



NISA制度・iDeCo等



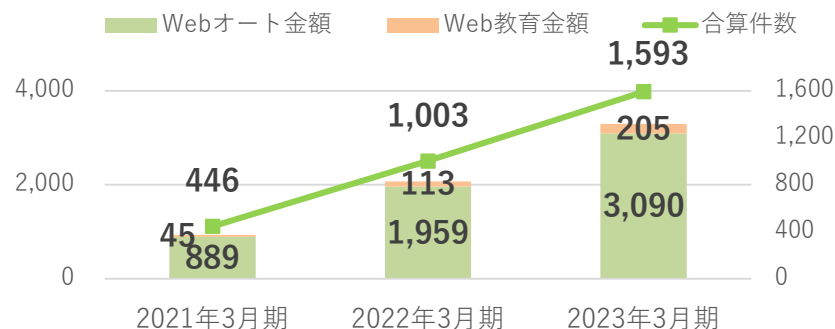
積立投資信託・NISA



Web完結型ローン

(累計実行金額：百万円)

(累計取扱件数)



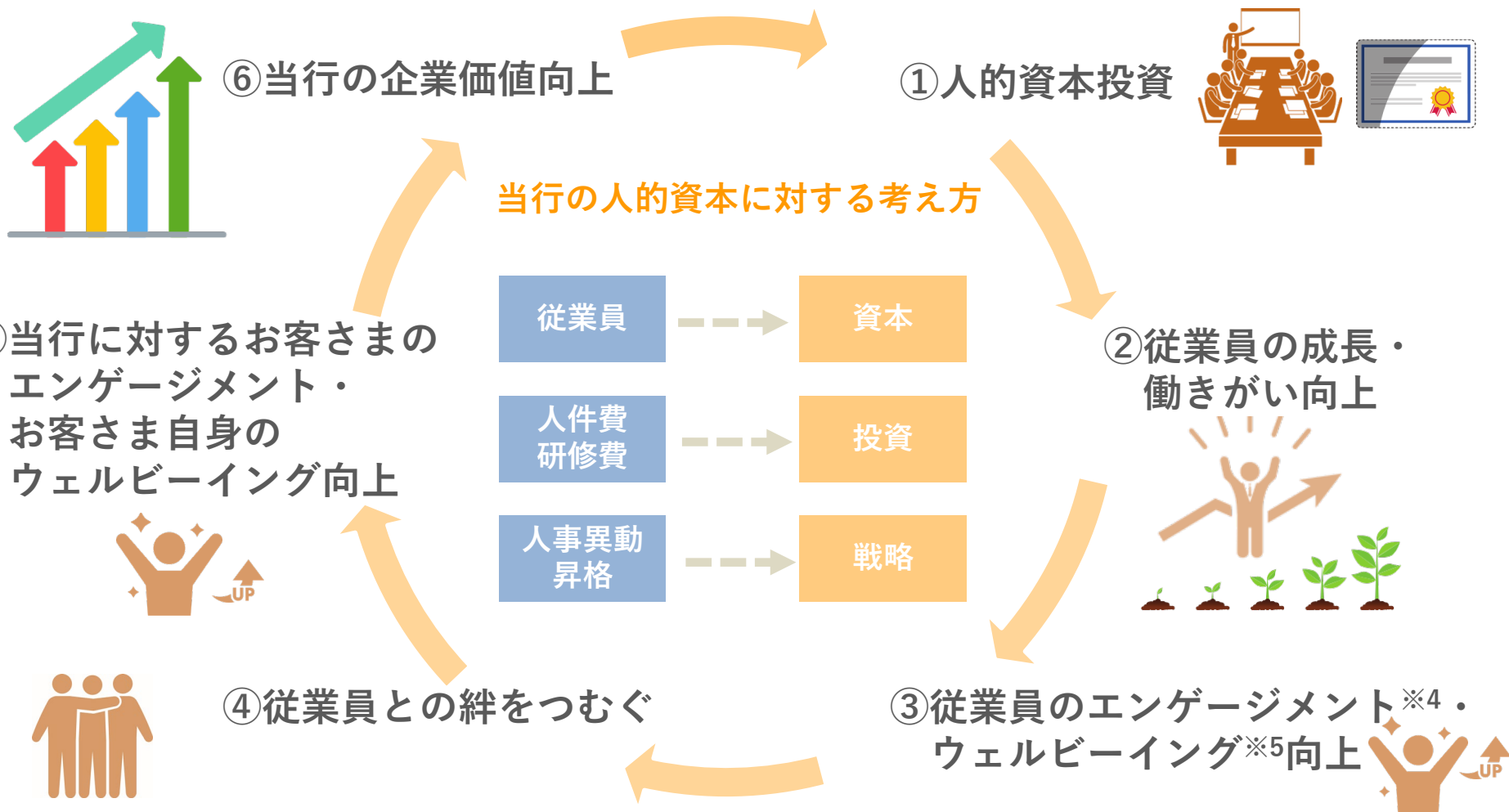
相続関連サービス

商品・サービス	2022年度実績	
しみず遺言代用信託	32件	収益 4百万円
遺言信託業務	3件	
その他相続関連	17件	

第28次中期経営計画 ～人的資本の充実①～

人的資本の充実とは

従業員が持つ知識・能力を資本とみなし、人財を「コスト」や「資源」ではなく「投資対象の資本」として捉え、人財の力を最大限に引き出し、企業価値向上につなげていくこと。



※4 エンゲージメント：深いつながりをもった関係性

※5 ウェルビーイング：身体的・精神的・社会的に良好な状態

第28次中期経営計画 ～人的資本の充実②～

人財育成への取り組み

本部トレーニー

- 営業店所属行員が本部業務を体験することで、自身の業務の専門性を高めるとともに、本部と営業店の相互理解を深める。
- 2022年度は、全9部署で23回開催、147名が参加。

ポートフォリオ研修プレゼン大会

- 2年目行員を対象に資産運用のアフターフォロー等についてロールプレイング形式でプレゼンを行う。
- ウェルスアドバイザー(株)から審査員を迎え、プレゼン内容を評価し、優績者を表彰。

土曜講座

- 1級FP技能士や中小企業診断士などの難関試験の対策講座を土曜日に開講し、行員の資格取得への挑戦をサポート。

全行員が共通の通信講座を受講

- 全ての企業に共通する経営課題である事業承継・M&Aやサステナビリティについて通信講座や資格取得を推進。事業承継・M&Aエキスパートの取得者270名。サステナブル経営サポート237名、サステナビリティオフィサー38名。

証券トレーニー



ポートフォリオ研修プレゼン大会



土曜講座



人事制度改定（予定）

パーパス

「地域を愛し、お客さまの未来をともに考え、共創します」

初任給引き上げ・賃上げ

- 初任給引き上げ
- 若年層の給与・賞与テーブルの水準を引き上げ

休暇制度の充実

- 育児休暇（仮称）の新設
- 積立休暇の新設

人的資本の充実

キャリア開発支援制度の創設 副業・兼業の解禁

- 1級FP技能士、中小企業診断士等の対象となる
公的資格取得者への報奨金
- 幅広い実践経験を積み、銀行業務に応用

中途採用（登用・復職）要件の緩和

- 即戦力となる人財の確保、D&Iの実践

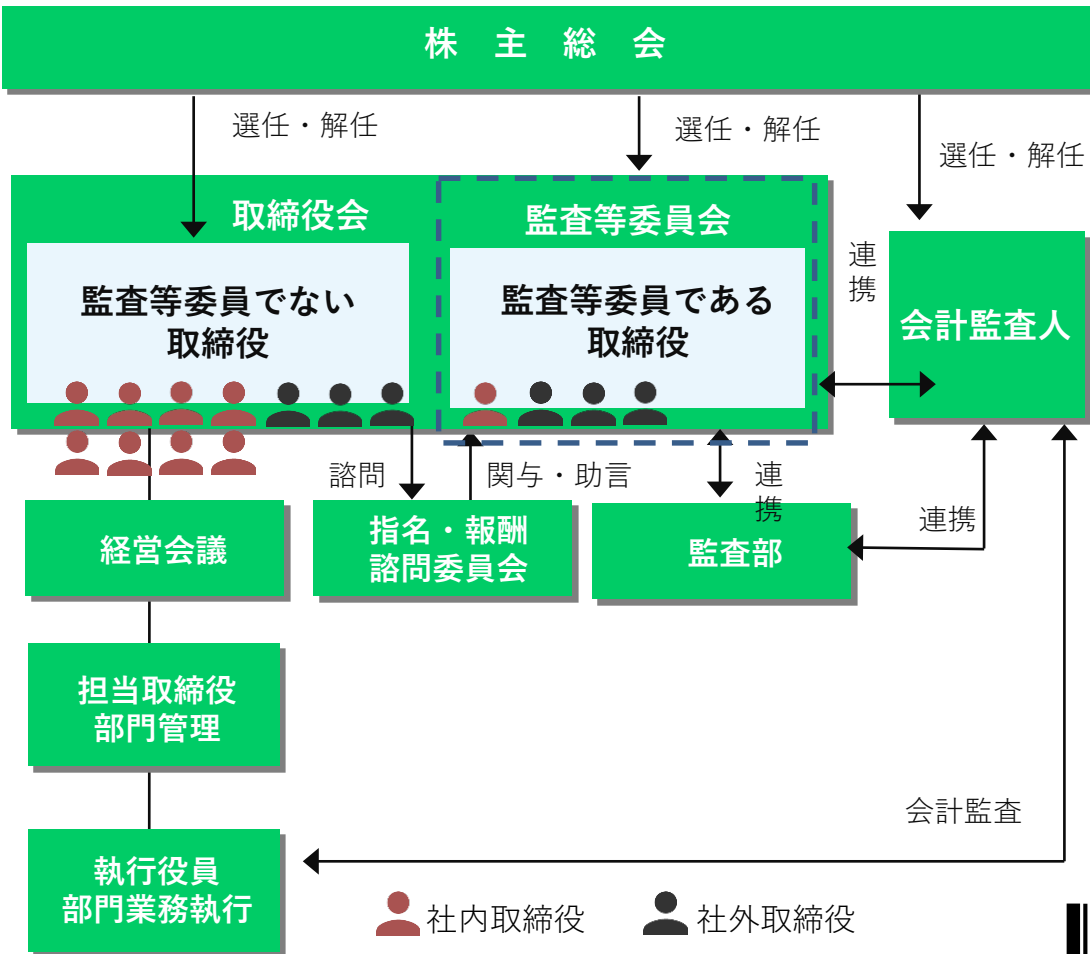
従業員への投資を加速することで、「人的資本の充実」が図られ、「ソリューション営業の高度化」・「サステナビリティ経営の実践」が達成される好循環を生み出す

サステナビリティ経営の実践とは

当行が永年培ってきた経営基盤をさらに強化し、地域の「環境」「社会」「経済」の持続的な発展に寄与することで、持続可能な社会の実現を目指し、当行の企業価値の向上につなげる。

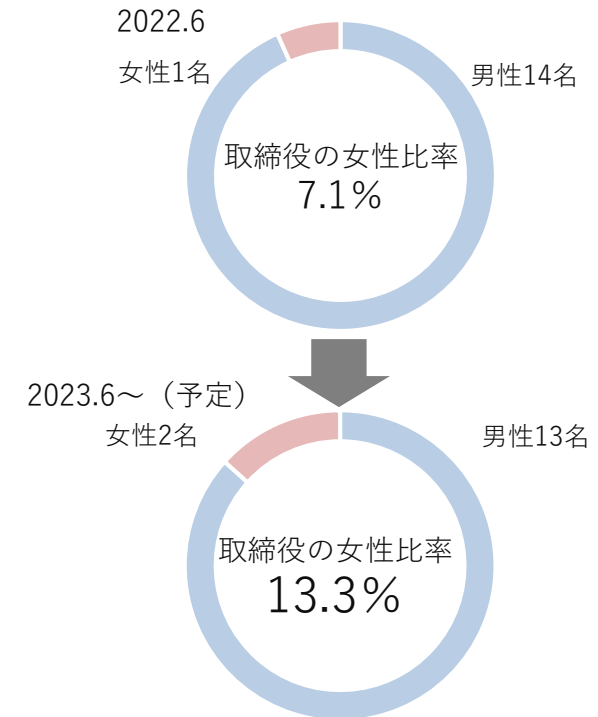


ガバナンス強化への取り組み



女性取締役を増加（2023.6予定）

- 多様な意見や知見を反映するため、女性取締役の人数および比率を増加



譲渡制限付株式報酬制度導入（2023.6予定）

- 株主の皆さまとの一層の価値共有を目指す

SBIグループとのアライアンス

SBIグループとの連携領域拡大

SBIグループが有する高度なノウハウと幅広い金融サービスを地域に提供



清水銀行SBIマネープラザ浜松



清水銀行SBIマネープラザ静岡

資産形成

SBI GROUP SBI証券

SBI マネープラザ

金融
ソリューション

非対面サービス

SBI NEO FINANCIAL SERVICES

SBI 新生銀行



DX化支援

SBI NEO FINANCIAL SERVICES



SBI Business Solutions

請求QUICK

承認Time

経費Bank II

ファンド出資

事業承継・M&A

SBI Investment

SBI GROUP SBI証券

企業型DC

SBI Benefit Systems



システム戦略

次期基幹システムへの安全移行 移行後の安定稼働



次期基幹系システムにNTTデータが提供する「STELLA CUBE[®]」を採用

「STELLA CUBE[®]」の特徴

▶ システムの安全性と安定性

NTTデータの提供する「STELLA CUBE[®]」は2011年10月のサービス開始以降、安定した運用を続けており、システム運営とセキュリティ管理において当行が最も重視している安全性と安定性を実現できる

▶ 拡張性と柔軟性に優れた最先端システム

当行の業務ノウハウとの融合により、お客さまのニーズにあった商品・サービスをより一層迅速かつ安定的に提供することができる

▶ 基幹系共同センターのスケールメリット

システム開発・運用等のシステムコストの更なる削減により業務の抜本的見直しが可能となり、経営基盤の強化が期待できる

「STELLA CUBE[®]」は2024年5月稼働開始予定

地方創生への取り組み



東海大学工学部との 「産学連携の協力推進に係る協定書」締結

法人のお客さま

東海大学工学部

技術面の
ニーズ

清水銀行
マッチング
コーディネート

豊富な研究
シーズ

技術相談・共同研究・情報提供

地域経済・社会の発展

株式会社エイディーディーと東海大学工学部の マッチングコーディネート

<共同研究内容>

- 深度冷熱に対応する新規冷媒の開発による環境負荷低減に貢献する総合冷却システムの研究
- 電気化学的方法により海水から水素を製造する総合システム開発の研究



越境ビジネスマッチングへの取り組み

地場産品の交流を促進する地域商社機能の発揮



長野県の「朝採りレタス」を静岡県内のスーパーに供給
静岡県の新鮮な水産物を山梨県に供給
静岡県の新鮮な水産物を長野県に供給



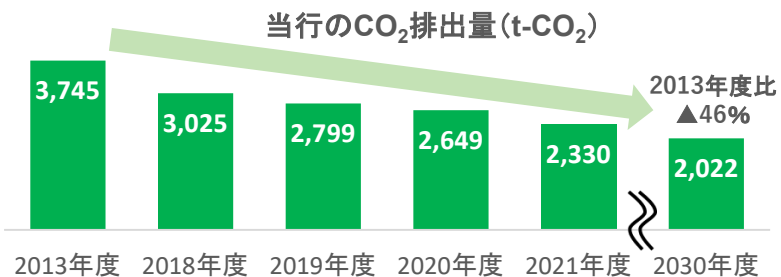
環境への取り組み



温室効果ガス排出量削減に向けた取り組み

2030年までの目標

温室効果ガス排出量削減率(2013年度比)
▲46% (2030年度目標)



CO₂フリー電気「静岡Greenでんき」の導入

2022年度削減効果

1,359t-CO₂



オンサイトPPA（電力購入契約）による 支店屋上への太陽光発電設備の設置

2022年度削減効果

2t-CO₂



森林保全活動

毎年新入行員が植林

累計植林本数
(2008年より実施)

2,130本



所有林の有効活用 店舗内装への 間伐材の使用



地域企業が開発した脱プラ製品等を積極活用



地域活性化への取り組み



地域振興

地域行事への積極的な参加

清水みなとまつり
への参加等



スポーツ振興等への継続的参画



オフィシャルトップパートナー



寄贈式

文化事業への継続的協賛

美術展への協賛等



金融経済教育

静岡大学での講義



2017年開始 6回目

静岡県立大学での講義



2005年開始 18回目

清水東高校 プロフェッショナルと語る会



2012年開始 7回目

小学生向け職業体験講座



2013年開始 9回目

金融経済教育累計受講者数 2,993名

An aerial photograph of a coastal city, likely Shizuoka, Japan. The city is densely packed with buildings and industrial areas, situated along a coastline with a large bay. In the background, the iconic snow-capped peak of Mount Fuji rises majestically against a clear blue sky. The foreground shows a mix of urban development and green spaces.

清水銀行のパーパス

地域を愛し、お客さまの未来をともに考え、共創します

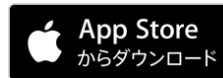
事前に株式会社清水銀行の許可を書面で得ることなく、本資料を転写・複製し、又は第三者に配布することを禁止いたします。本資料は情報の提供のみを目的として作成されたものであり、特定の証券の売買を勧誘するものではありません。本資料には将来の業績に関する記述が含まれておりますが、これらの記述は将来の業績を保証するものではなく、経営環境の変化等により、実際の数値と異なる可能性があります。

当行ホームページ

<https://www.shimizubank.co.jp/>



清水銀行アプリ



【本件に関する質問・ご照会先】

株式会社清水銀行 経営企画部
e-mail : smz@shimizubank.jp



清水銀行